

ビジュアル系
子ども・家族の
理解と支援

六面接における
安定と変化



家族援助あれこれ

一般に物事が期待している通りにすすむとホッと安心し、予想が外れると困惑します。このことは、面接においても言えるように思います。

ただし面接の場合は、予定調和的に運ぶだけだと安定しても変化には乏しいでしょうし、逆に想定外が多いと混乱してしまうでしょう。

そんなわけで、今回は“面接における安定と変化”について考えてみました。マンガは団士郎氏の許諾をいただき、木陰の物語と家族の練習問題から転載しています。

(1) 相談→予想通り→ひと安心

オレたちのところ（児童精神科）は、「もう最悪」「いまは最低」という悲観的な荷物を抱えて来る人が多いよな



そうや、現状をそう認識してはる。言うたら、その悲観的な荷物は“不安と怒り”柄の風呂敷で包まれとるわけや

だとすると、その結び目をほどこことから仕事が始まるわけだ



この「最低で最悪！」
は、たいてい家庭や学
校における自分の立ち
位置から来ている



もちろん、その現状認識の背景
には原因・根拠がしっかりあるわ
けで、荷物箱の中にはそんなエ
ピソードがいっぱい詰まっている

なんでこん
なことに！

このまま
じゃダメだ

もう最低、
最悪だ！

～のせいでこん
なことになった



こんな感じ
やなあ



そこで現状のしんどさへに共感し、
当事者なりの理解・仮説（何々
が原因で～、誰々のせいで～）
に耳を傾ける。そんなふうに予想・
期待に沿ってすすめると、“ひと
安心”にたどり着く、お互いにな



校長室に呼び出されたら、
カミナリを予想するわな。で、
その通りだったら、叱られて
るのにホッとする。お約束の
安心感ってわけやな



まあ、そうかな



そして診断とか治療方針の説明に入ると、それ以降は治療者と当事者、情報・サービスの提供側と受け取り側、といったさかい目が明確になる

信頼を挟んで互いに安定するわけやけど、“あとはお任せします”になりやすい。もちろん、それで荷物が軽くなるのは事実やけどな





ただ、「予想通りで安心」
という場所にずっといたら、
こちらの意図する変化は
なかなかやってこない。そ
う思わないか？

困ったときでさえ
現状維持に流れ
る。それがヒトっち
ゅうもんやろ





オレが言いたいのは、認識の仕方が従来通りだったら、習慣的な立ち位置の把握とか反射的な感情の揺れもそのままってこと。他の生活場面でもこれまで通りの認識をしていたら、いずれは「すべてがうまくいかない！」となるんじゃないか

どっかで「予想通り」から「想定外」にギヤを入れたいわけや。ちゅうことは、例の荷物箱の中身をどう扱うかやな



そうそう。ただ、彼らが予想
外の揺れで自分の枠から
出る前に、自分自身が枠に
はまった診察から出なきゃと
思うわけよ



双方の、いわゆる
“心のクセ”ってやつ
やな。長くなるから、
次回にしようや



どうでもいいけど、
なんでオマエだけ
カラーなんだ